

高齢化する世界

健康長寿に向けた 神奈川県と世界保健機関(WHO)の取組



今や高齢化は日本のみならず世界的な課題となっています。昨年12月の国連総会では、人々、家族、地域社会が健康に歳を重ねるために、2021年から10年で社会全体の協調行動を促す「健康な高齢化の10年・2021~2030」が採択されました。神奈川県でも、いくつになっても生き生きと暮らせる社会をめざし、県民の皆さんの未病改善の取組を促進しています。また、世界保健機関(WHO)と連携し、県の施策の充実や未病コンセプトなど県の取組の発信を進めています。セミナーでは、県がWHOと連携して開発した「未病指標」の現在・未来を紹介します。また、県・WHOの連携の橋渡しをしている現職のWHOスタッフの活動状況を報告します。

日時：2021年3月24日(水)17時~18時30分

参加申込

下記ページからお申込みください

定員500名・先着順/定員になり次第終了させていただきます

<https://kanagawa-shi-seminar.peatix.com>

プログラム(予定)

17:00 開会

17:05 超高齢社会を乗り越える神奈川県の取組

17:15 未病指標の開発と今後

鄭 雄一(てい・ゆういち)氏

神奈川県顧問/神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科 研究科長・教授/東京大学大学院工学系研究科・医学系研究科 教授



プロフィール

東京大学医学部医学科を卒業、内科研修医および医師として勤めた後に、東京大学大学院医学系研究科に入学。在学中の1995年に米国マサチューセッツ総合病院に留学し、ハーバード大学医学部講師、助教授を勤めた後、2001年に東京大学に戻り、2007年より東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻教授。2013年よりJSTセンター・オブ・イノベーション「自分で守る健康社会」拠点副機構長・研究リーダー。2016年より東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター教授を兼務。2019年4月より神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科長を兼任(クロスアポイントメント)。

17:45 WHOで高齢化に向けて取り組む

角 由佳(すみ・ゆか)氏

神奈川県顧問/世界保健機関(WHO)母子・新生児・思春期保健及び高齢化部 メディカルオフィサー



プロフィール

京都府立医科大学医学部卒業、大阪大学で医学博士取得。ハーバード大学医学部に留学。順天堂大学医学部救急災害医学及び同ジェロントロジー講座先任准教授を経て、2016年6月から神奈川県立保健福祉大学の職員としてヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室に勤務。同年12月に県からWHOに派遣。WHOが進める「健康な高齢化」の実現に向け、「高齢者のための包括的ケア」(ICOPE)のガイドライン策定などに取り組みながら、県とWHOとの連携を推進。2020年9月からWHOの職員となり、同年10月から神奈川県顧問。

18:30 閉会

神奈川県立保健福祉大学理事長 大谷 泰夫